



進化続ける浴室

浴室は、単に体の汚れを洗い流す場所から、一日の疲れを癒す空間として重要度が増しています。その工法はタイルを使つた在来工法とユニット式の2種類があります。機能やデザインで目を引くものが増えていくユニットバスを取り上げます。

ユニットバスの歴史

1964年に開催された前回の東京オリンピック前、国内には外国人向けの宿は限られていきました。そこで、都心の各地で相次いでホテルが建設されました。当時の浴室の一般的な工法は、職人が

突貫工事でホテルの建設が進む中、各部屋の浴室の工程が大きく遅れかねないため、工期短縮と品質の画一化を考えて開発されたのがユニットバスでした。部材を組み立てれば完成するので、大規模ホテルの約1,000室の浴室の工事が約2か月で完成しました。これが一般家庭にも普及していきました。

機能とデザインの両立

最近のユニットバスは高い断熱性が売りです。壁や床、浴槽などに断熱材を施し、湯船の40℃の湯温が、6時間経つても2℃しか下がらない魔法びんのような浴槽があります。特殊な凹凸加工を施した床は、滑りにくく乾きやすい仕様です。壁や湯船の色なども様々な色や仕上げから選ぶことができます。

タイルを浴室の壁や床、湯船に貼り付けていました。なので、一般家庭の風呂でも、着工から完成までに約3週間かかりました。

ユニットバスを取り入れています。タイル貼りの浴室は、とても寒く、お年寄りなどが脳や心臓のトラブルに見舞われることがありました。

ところが、断熱効果が高いユニットバスだと、居間などとの気温差が小さく体の負担も軽減できます。浴室暖房機を取り付ければ、もっと効果的です。

浴室を広く

マンションなどの集合住宅で浴室をリフォームする際に、風呂場が狭くなってしまうことがあります。

ユニットバスは直方体の浴室向けに設計されていたので、柱が張り出した浴室をユニットバス化する場合は、一回り小さいサイズにせざるを得ないこともあります。最近は、こうした梁や柱の大きさに合わせてユニットバスも細かく調整できるので、古いユニットバスをリフォームして、浴室が広くなることだつてあります。

在来工法

- ▽高級浴室もあるが職人の腕次第
- ▽直方体でない浴室にも対応可
- ▽一般に手入れ難しく、冬は寒い

ユニットバス

- ▽高級感のある商品も登場
- ▽寸法や形状に一定の自由度も
- ▽磁石で壁にフック等取り付け可
- ▽浴槽も含めて保温性高い
- ▽工期短く、仕上がりも均一

読売不動産